



れんごうさが

No.205

2026年1月

安心社会へ 果敢にアクション！
～広げよう「理解・共感・参加」の輪～

RENGO SAGA

発行 日本労働組合総連合会・佐賀県連合会

発行人 松尾和寿

編集者 東島美香

〒840-0804

佐賀市神野東4-7-3

TEL0952-33-3705

FAX0952-33-2805

2026新年のごあいさつ



日本労働組合総連合会 佐賀県連合会 会長 ^{くさば}草場 ^{よしき}義樹

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

日頃より連合佐賀の運動にご理解とご協力をいただき心より感謝を申し上げます。昨年も、年間を通して地震、大規模な火災、風水害などの災害が多く発生いたしました。亡くなられた方々に哀悼の誠を捧げるとともに、被害に遭われた方々にお見舞いを申し上げます。まずはお礼です。第27回参議院議員通常選挙、唐津市議会議員選挙、白石町議会議員選挙、佐賀市議会議員選挙、鳥栖市議会議員選挙において力強い戦いができました。組合員とご家族のみなさまのご支援に心から労いと感謝を申し上げます。本年の2月には小城市議会議員選挙、4月には武雄市議会議員選挙が施行され、連合佐賀推薦候補者が挑戦をいたします。引き続きのご支援をよろしくお願い申し上げます。

さて、2025年新語・流行語大賞は、「働いて働いて働いて働いて働いてまいります」でした。これは、自民党・新総裁となった高市早苗氏の発した言葉です。国民への献身的な姿勢を示す発言として頼もしく思える人がいた一方で、「Karoshi(過労死)」という言葉が世界的に知られる労働環境であるだけに物議を醸しています。現在、労働時間の規制緩和の動きがあります。2019年に「働き方改革」に関する法律が施行されましたが、いまだに労働者の総労働時間は高止まりし、過労死等による労災認定件数も過去最多を記録しています。そのような中で、時間外労働の上限規制や、裁量労働制の拡充をはじめとする労働時間の規制緩和が政治の中で取り上げられており、高市氏の発言はこれを助長するものとして危惧されています。

労働時間が少なく生活が厳しいのは、それは賃金が低いのであって、所定労働時間で十分に生活できるだけの賃金水準に引き上げるべきです。連合は2026春闘において、3年連続で5%以上の賃上げをめざし、あわせて企業規模間格差の是正をはかるべく、基盤整理としてサプライチェーン全体で生み出した付加価値の適正配分、適切な価格転嫁・適正取引の推進を今次春闘でもしっかりと訴え、構成組織と一体となって運動を展開いたしますので、お力添えをよろしくお願いいたします。

結びといたします。本年の干支である丙午(ひのえうま)は、「情熱や行動力が高まり、勢いのある一年」と解釈されています。大地を蹴って走り出す馬のように、自分の目標や夢が一気に動き出す。そんな輝かしい一年になることを祈念申し上げます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

明けましておめでとうございます 今年もよろしくお願いいたします



連合佐賀



東部地協



北部地協



南部地協

2026新年のごあいさつ

日本労働組合総連合会 会長 よしの 芳野 ともこ 友子



謹んで新春のお慶びを申し上げます。

日頃より連合運動へのご理解とご支援をいただき心より御礼申し上げます。

新年を迎え、21世紀も4分の1が過ぎ、新たな4半世紀がスタートします。

21世紀はグローバル化の時代と期待され、情報通信技術の高度な発展とともに様々な分野でリアルにグローバル化が進展しました。特に経済は、24時間365日、途絶えることなく国境を超えた活発な活動が行われるようになりました。そして、AI、IoT、ロボット技術など進化を続ける最先端の科学技術を基盤とした第4次産業革命が、それに拍車を掛けています。世の中の動きは常にデータとして捕捉され、ビッグデータと称されたそれは、これまで人間による計算では見出すことのできなかった新たな価値を発掘することに繋がり、人々の生活をより豊かにしながら、効率性を極限まで追求するような社会のあり様や個人の行動様式をも生み出しつつあります。身近なところでは、「コスパ」(コストパフォーマンス;費用対効果)といった従来からの表現に加え、数年前には「タイプ」(タイムパフォーマンス;時間体効果)という新語が生まれるなどしています。

しかし、このような時流に上手に乗った者には富が集中し、その結果、経済的格差の拡大が発生しています。富める者と富まざる者との両極化と中間層の縮減、さらには貧困層の拡大は世界的に大きな問題となっており、負のグローバル化も進展しました。

また、これまでの経済活動などによって生じた環境問題も、世界各地で深刻な状況が継続しており、とりわけ、気候変動問題は人々の生命を脅かしています。20世紀最初の年に『二十世紀の予言』という新聞記事に23項目の未来予測が掲載されました。22項目はほとんど実現されましたが、「台風を防ぐ」という項目だけ未だに実現されていません。そればかりか、気候変動の影響を受け、年々、台風の勢力は巨大化しており、それによる被害は甚大です。

そして、グローバル化は、人々の思想信条にも影響を与え、ポジティブには多様化と言えますが、白か黒かで答えを導こうとするような二極化あるいは分極化といった面も見受けられるような時代になりました。

さて、次の4半世紀でどのような世界をつくっていくのか。

その手綱はもちろん私たち一人ひとりの手にあります。連合は、「働くことを軸とする安心社会—まもる・つなぐ・創り出す—」というビジョンにおいて、「持続可能性」と「包摂」を基底に置き、多様性を受け入れ、互いに認め合い、誰一人取り残されることのない社会をめざしています。

グローバル化によって、不確実性が高まっている今こそ、私たちはこのビジョンを改めて見つめ直し、真にジブンゴトとして、その実現に心血を注いでいかなければなりません。そして、私たちが自らこの世界をより良いものにしていくとの決意を新たに、その一步を踏み出しましょう。

本年が皆さまにとってチャレンジングで、実り多い一年となりますことを祈念いたします。





連合佐賀の組合員の皆様、ご家族の皆様、新年あけましておめでとうございます。

日頃より、働く者の権利を守り、生活の向上と地域経済の発展のために、最前線でご尽力
いただいていることに、心より敬意と感謝を申し上げます。

昨年を振り返りますと、私たちにとって極めて大きな挑戦の年でありました。特に参議院議員選挙においては、連合佐賀として初めて組織内から候補者を擁立し、その志を国政へ届けんと共に戦い抜きました。これは佐賀の労働運動史における歴史的な一歩であり、私たち立憲民主党佐賀県連にとっても、組織の総力を挙げた決して忘れることのできない戦いとなりました。あの酷暑の中で皆様と流した汗、そして固く結ばれた「連帯の絆」こそが、これからの佐賀を変える原動力になると確信しています。また、相次いで行われた各地方自治体選挙においても、皆様の多大なるご支援により、地域に根差した多くの仲間が議席を得て、草の根からの民主主義を強化することができました。

一方で、国政に目を向ければ、我が国の現状はまさに危急存亡のときにあります。長引く円安と物価高騰は、実質賃金の伸び悩み働く人々の家計を直撃しています。今の政治は、真面目に働く者が報われず、一部の利権に群がる者だけが潤うような構造になってはいないでしょうか。私は、「日本を衰退から成長へ」という理念の下、増税ありきの議論や、国民の生活を顧みない冷たい政治に対し、いまこそ「温かい政治」を取り戻さねばなりません。食料安全保障やエネルギー問題を含め、日本の主権と、地方の豊かな暮らしを守り抜くことこそが、私の使命であります。

新しい年、2026年。私たちは立ち止まっている暇はありません。昨年の戦いで得た教訓と結束を糧に、さらなる飛躍を誓う年であります。働く者の生活を守ることは、すなわち日本を守ることです。連合佐賀の皆様と手を携え、誰一人取り残さない社会、そして子どもたちが未来に希望を持てる日本を築いて参りましょう。共に進みましょう。本年が皆様にとって幸多き年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。



明けましておめでとうございます。

連合佐賀の皆様におかれましては、健やかに新年の幕開けを迎えられたものと、お慶び申し上げます。

昨年においては、参院選が行われ、連合の皆様と、各構成組織が支援される仲間の応援を含めて全国をまわらせて頂きました。多くの仲間の皆様が再び、あるいは新たに国会で活躍頂くこととなりました。ともに頑張っていきたいと思いをします。

佐賀においては富永あけみさんを熱く応援頂き、改めて感謝申し上げます。結果は残念でしたが、将来に向けてともに歩んでいきたいと思いをします。

高市政権が船出しました。物価高が引き続き国民生活における大きな負担となっています。

連合の皆様におかれては連年、春闘を通じて、歴史的な賃上げを実現して頂きました。しかしながらさらなる物価高が追い打ちをかけています。

高市政権は、昨年末経済対策を打ち出しましたが、物価高対策としては十分ではありません。加えて、賃上げの促進については、政府としては積極的な姿勢を見せていません。

これに対して、今年一年の国会活動を通じて、引き続き連合の皆様と足並みを揃えながら、賃上げを後押しし、働く仲間の暮らしを支える政策の推進に、しっかり取り組んで参りたいと思いをします。

今年も、地方選挙を含め、重要な戦いが続くことが予想されます。

皆様とともに頑張り抜く決意を新たに、新年のご挨拶とさせていただきます。

2025中小民間労組交流集会開催



長迫委員長の主催者代表挨拶

その後、講演①として「会社と労働者を守るために共に動く」～対立ではなく、協働へ～と題して社会保険労務士 池田信宏(いけだのぶひろ) さまから講演をいただいた。

講演では、ハラスメントによって事件に発展するようなことがあれば、会社存続や従業員への影響など計り知れないリスクを生じることになる。また、メディアや・SNSなどの拡散もあり、永久にネット上に残る(デジタルタトゥー)事もあり得



井手産業労働部長

る。そうなる前に会社との橋渡し役の労働組合が労働者だけでなく、会社全体を守ることに繋がることを理解してほしい。会社と労働組合で労働者が安心して働くことのできる環境をつくるためには従業員向けアンケートの実施や相談窓口の設置、さらには就業規則や服務規程の明確化など労働組合から提案していくことも可能である。会社だけでは現場の実態を把握することは困難なので、労使協同で進めていくことが重要である。最後に『ハラスメントを誰かの問題にせず、組合も・会社も・全員で防ぐ文化をつくる』ことがより良い職場環境に繋がることを理解してほしいと挨拶され講演①を終了した。

講演②として、「佐賀県の産業労働行政について」と題して、佐賀県産業労働部長の井手宜拓(いでのぶひろ)さまから講演いただいた。

井手部長からは『佐賀県では、県民の皆さんや県議会の議論も重要だが、各種団体の意見も非常に参考にさせていただいている。連合佐賀においても知事との意見交換含め様々な問題を提起いただいている事は大変重要と考えている。今後も現場の声を丁寧に聞き、より使いやすい制度や仕組みを考えていきたい。』と話があり、佐賀県の特徴的な取り組みが紹介された。価格転嫁の推進では企業へ伴走型支援として中小企業診断士を派遣し、価格転嫁に向けた取り組みの支援を行う事で販売価格の改定などを行うことができたこと。さらには高校生の県内就職の促進や奨学金返還支援事業、外国人人材の活用など様々な取り組みが紹介された。最後に今後も連合佐賀からの意見要望含め、より良い佐賀県となるよう共に頑張りましょうと挨拶され、講演②を終了した。

連合佐賀フェアワークセンターでは9月の幹事会で交流集会のテーマ選定を議論し、ハラスメント研修および佐賀県の賃上げに向けた取り組みなどを集会テーマにすることを確認し、今回のテーマ「会社と労働者を守るために共に動く」「佐賀県の産業労働行政について」と題して交流集会を開催した。集会では各産別、地協、フェアワークセンター幹事含め45名参加いただいた。

まず、フェアワークセンターの長迫委員長が主催者を代表して「慢性的な人手不足など、中小企業は様々な問題を抱えている事と思う。この研修を通じて労働組合の役割など今一度、認識していただき、問題解決の一助となることを期待する」と挨拶が行われた。



社会保険労務士 池田講師



政策委員会「2025現地視察」

毎年、政策・制度に関わる時事のテーマを掲げ「現地視察」を実施しており、今年度は「防災・減災」と「地域産業の振興」をテーマに現地視察を行った。

＜視察1＞ 原子力防災体制や安全対策を学ぶ

① 九州電力(株)玄海原子力発電所(玄海町)

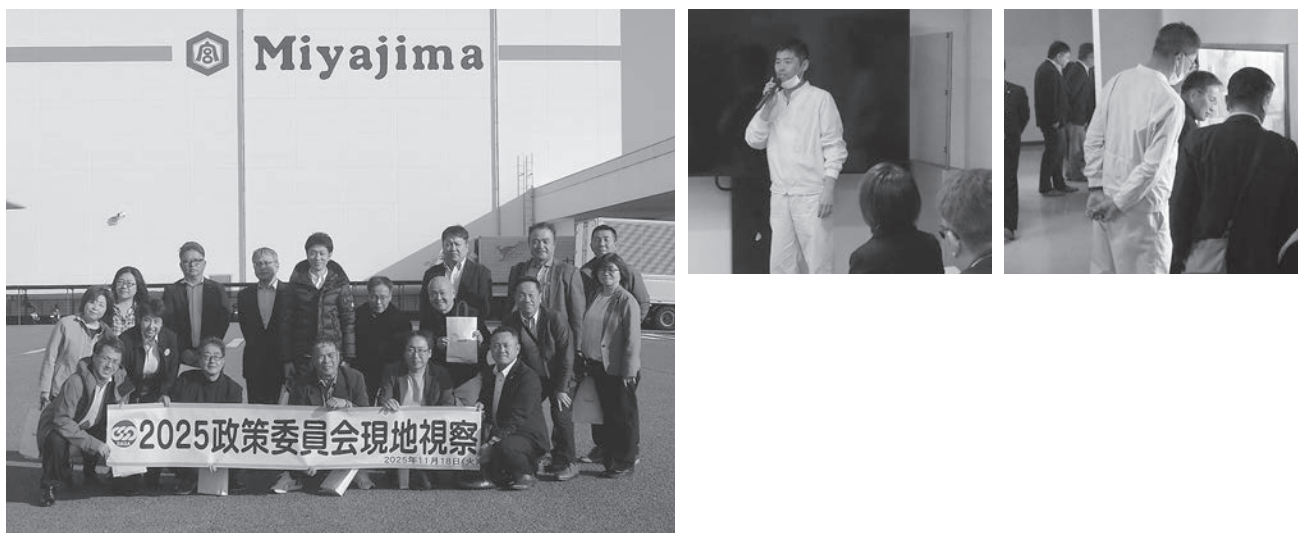
連合佐賀 河埜副会長の会社である九州電力(株)の玄海原子力発電所を視察させていただいた。九州初の原子力発電所として1975年に運転が開始され、現在、4機のうち3号機と4号機が稼働している。最初に、発電所の概要、1号機、2号機の廃止措置の状況、加圧水型軽水炉の発電の仕組み、福島第一原発事故の教訓を踏まえた安全・地震・津波対策として昨年10月に運用開始された緊急時対策棟などの説明を受けた。その後、バスで発電所構内を案内いただき、緊急時対策棟の施設内を視察した。重大事故発生時の指揮所として最大100名、支援要員など200名以上収容が可能で、100名の1週間分の食料のほか、交代で仮眠できる組立ベッド40名分などが常備されていた。非常に貴重な原子力の防災体制や安全対策を学ぶ視察となった。



＜視察2＞ 原子力防災体制や安全対策を学ぶ

② 宮島醤油(株)(唐津市)

連合佐賀 瓦田執行委員の会社である宮島醤油(株)妙見工場を視察させていただいた。宮島醤油は、明治15年に創業され、日本人の“食の原点”ともいえる醤油・味噌を作り続けて143年の伝統を誇り、国内全3工場で国際規格SQF認証を取得し、徹底した品質管理が行われている。妙見工場は、地域社会活性化という佐賀県の政策によって唐津湾を埋め立てて造成された工業団地に1989年に建設され、宮島醤油総合食品事業の拠点となっている。醤油・味噌の醸造技術を基盤にソース、スープ、レトルトなど3500種以上の商品を製造し、①自社ブランド事業、②業務用調味料事業、③OEM事業(他社からの生産委託)の3事業が展開されている。研究開発室や調味小袋の袋詰め工程、焼肉のたれのボトル詰めなど製造現場を案内いただき、地域に根ざした食産業の振興を学ぶ視察となった。



青年委員会「第36回定期総会」開催



連合佐賀青年委員会は、12月6日(土)10時より「アバンセ」にて、代議員・青年委員会役員あわせて54名の出席のもと「第36回定期総会」を開催した。

来賓として、連合佐賀より矢ヶ部副事務局長、国民民主党佐賀県連より草場健次事務局長からご挨拶いただいた。なお、原口一博衆議院議員勝田秘書、大串博志衆議院議員片渕秘書にもご出席いただいた。

2025年度の活動を総括し、議案として2026年度活動方針ならびに2026年度役員が提案され、両議案とも承認された。また、役員改選に伴い、新旧役員の紹介・挨拶が行われ、その後、総会アピールを採択し、福田

新委員長のガンバロー三唱で閉会した。

2026年度の活動にあたっては、連合佐賀2026年度運動方針および青年委員会会則に定める目的と活動をふまえ、次世代を担う青年リーダーの育成や単組・産別の枠を超えた青年の交流・学習会、政治活動への理解促進・参加等に取り組むこととする。また、構成組織・地域協議会の青年組織・青年組合員との連携に努める。

次世代を担う青年リーダーの育成は、労働組合として重要な運動の一つであり、青年活動の活性化に向け、各機関・組織の位置づけと役割を確認しながら諸活動を展開するため、引き続きのご支援ご協力をお願いしたい。



【2026年度役員体制】

※副委員長、委員：五十音順

役 職	氏 名	産 別	単 組	再／新
委 員 長	福田 雅人	自 治 労	佐 賀 市 職 労	新
副 委 員 長 (2名)	小野 幹太	電 力 総 連	佐 電 工 労 組	新
	鈴木 翔也	情 報 労 連	N T T 労 組	新
事 務 局 長	田中京太郎	電 機 連 合	戸 上 電 機 労 組	新
事務局次長	宮田 淳平	J P 労 組	J P 労 組 北 部 支 部	新
委 員	小川 慎也	電 機 連 合	日清紡マイクロデバイスAT労組	新
	加川啓一郎	自 治 労	伊 万 里 市 職 労	新
	坂井 順	自 動 車 総 連	佐 賀 鉄 工 所 労 組	新
	田中丸真吾	運 輸 労 連	全 日 通 労 組	再
	鶴丸 聖人	U A ゼンセン	ス ー パ ー モ リ ナ ガ 労 組	再
	福田 奨悟	電 力 総 連	チ ク シ 電 気 労 組	新
	堀 航平	フ ード 連 合	不 二 家 労 組	新
	選出中	全 水 道		

【退任役員】

前委員長 猪古知奈津(電力総連)、前副委員長 山根昂希(電機連合)、

前事務局長 森洋輔(自治労)、前事務局次長 林祐介(情報労連)

前委員 荒木拓登(自動車総連)、江頭慶(電力総連)、鈴木一輝(電機連合)、田中実(全水道)、服部文哉(フード連合)

女性委員会「第36回定期総会」開催



連合佐賀女性委員会は、12月13日(土)「自治労会館」において、代議員・女性委員会役員あわせて34名の出席のもと「第36回定期総会」を開催した。

また、来賓として、連合佐賀より鳥巢副会長、大串博志衆議院議員にご出席いただいた。なお、原口一博衆議院議員山崎秘書にもご出席いただいた。開会にあたり、石隈委員長(フード連合)は「今年も『3.8国際女性デー学習会』『組合員アンケート調査』『労働局 雇用環境均等室への要請行動』などを実施してきた。また、今年には戦後・被爆80年を迎え、連合佐賀から組合員の皆さんに折り鶴の協力が呼びかけられ、女性委員会としても参画をして千

羽鶴と一緒に作成し、沖縄・広島・長崎の連合平和行動で、恒久平和を祈り、千羽鶴を献納した。女性委員会活動は、男女がともにイキイキと働き続けられる職場づくり、ハラスメントのない社会実現に向けた活動で、すべての人たちの人権を尊重し、平等に、安心して働くことができる社会をめざしている。女性活躍を一步でも前へ進めていきたい」と挨拶した。

総会では、2025年度活動報告が承認され、議案として2026年度活動方針ならびに新役員が審議、承認された。その後、「総会アピール」が採択され、閉会した。2026年度の活動にあたっては、「ジェンダー平等をはじめとして、一人ひとりが尊重された『真の多様性』が根付く職場・社会の実現」に向けて、産別の枠を超えた交流や情報交換、女性リーダーの育成など、多くの女性が参加しやすい環境の工夫に努め、「ジェンダー平等・多様性推進委員会」と連携をしながら、『連合「ジェンダー平等推進計画」フェーズ2』の取り組みを進めていく。

【2026年度役員体制】

※幹事：五十音順

役 職	氏 名	産 別	単 組	再／新
委 員 長	古賀 美里	全 労 金	九 州 労 金 労 組	新 任
副 委 員 長	塚元 慶香	自 治 労	神 埼 市 職 労	再 任
事 務 局 長	長野 由依	電 力 総 連	九 電 ユ ニ オ ン	新 任
副事務局長	北島八重子	情 報 労 連	N T T 労 組	新 任
幹 事 (6名)	大坪 昌子	U A ゼンセン	U A ゼンセン佐賀県支部	再 任
	梶島 章代	フ ード 連 合	味 の 素 労 組	新 任
	小柳 紗里	電 機 連 合	戸 上 電 機 労 組	新 任
	新郷 真弓	J P 労 組	J P 労 組	再 任
	福岡 友起	自 治 労	上 峰 町 職 労	再 任
	宮田 由美	電 力 総 連	西 日 本 電 気 鉄 工 労 組	新 任

【退任役員】

前委員長 石隈由紀子(フード連合)、前副事務局長 浦川桃(電力総連)、
前幹事 夏田彩乃(電力総連)

総会後は、連合佐賀東島副事務局長より、今年実施した「2025女性委員会アンケート調査結果」についての報告があった。今年の調査内容は『カスタマーハラスメント』に重点を置き、今年もWEB形式で実施し、1,430名の組合員の皆さんにご協力をいただいた。

連合佐賀ホームページで「2025女性委員会アンケート調査結果」を公開しているので、各職場でご活用いただきたい。



議員懇2025冬季研修会開催

連合佐賀議員懇談会は、11月29日(土)に「冬季研修会」を開催した。研修会では、政策制度の取り組みや各地方自治体の諸課題について議員と役員の情報の共有を目的に開催している。今回は、議員懇談会会員8名・連合佐賀(地協含)16名が参加した。

《連合佐賀議員懇談会 徳光清孝会長あいさつ》



「皆さんの地域では外国の方と普通に接し、また事業所であれば欠かせない労働力として外国の方が働かれていると思う。そのような意味では地域や事業所での課題もたくさんあると思っている。今日は多文化共生というテーマで、行政としての県の取り組み、そして子どもたちの支援をされているNPO団体より講演をいただく。議員の方は所属している自治体行政の今後の取り組みに生かしていただきたいし、産別の方々は、自分が働いている事業所で、多文化共生という職場環境も含めて、どのように取り組みを進めていくのかを学んで今後に活かしていただきたい。」と挨拶された。

〈講演1〉演題 「佐賀県の多文化共生の現状と取り組みについて」

講師 佐賀県地域交流部 多文化共生さが推進課 課長 西浦 聡子 様



佐賀県における外国人人口は、昨年1万人を超え10年前と比較して約2倍に増加している。雇用状況としては、製造業が半数を占め、30人未満の中小企業での雇用が多く、受け入れや定着に関するノウハウ不足が課題である。在留資格別では“技能実習”が最も多く、現行の“技能実習制度”は、技術移転を目的としながらも実態は労働力確保となっており、転職(転籍)ができないなどの問題があったため、2027年から新たに就労を通じた人材育成と人材確保を明確な目的とする“育成就労制度”が開始される。佐賀県の多文化共生に向けた取り組みでは、多文化共生・共創推進アクションプランを2023年に策定し、「日本人のマインド醸成」「外国人が安心して生活できる環境整備」「誰もが活躍できる環境整備」の3つを柱に進めている。増加する外国人住民と共に活力ある社会を築くための現状認識、具体的な支援策、円滑なコミュニケーションのための「やさしい日本語」の重要性など、県の多文化共生の取り組みについて講演いただいた。

〈講演2〉演題 「多文化共生教育とは～外国にルーツを持つ子どもたちの現状と課題から～」

講師 NPO法人さが子ども多文化センター・わーるどりんぐ 代表理事 松下 一世 様



わーるどりんぐは2013年に、外国にルーツを持つ子どもたちが、いじめやからかい、無視、言葉の壁などに困難を抱えていたため、ありのままの自分でいられる場が必要だと佐賀大学の教員、学生、留学生の協力を得て設立された。佐賀県内の状況として、日本語支援が必要な子どもは年々増加している。日本語指導が必要な128人(20か国)に対し、県内の指導教員はわずか7人しかおらず圧倒的に不足している。佐賀県では外国人ルーツの生徒が少ないため、教員の多くは対応経験がない状況である。また義務教育の就学義務が日本国籍の子どもにしか課せられておらず、高校入試制度の存在が日本語習得途上の子どもにとって大きな壁となっていることや、親の通訳などを担う“言葉のヤングケアラー”となり大きな負担を背負うこともある。3つの壁[①言語の壁(特に学習言語の習得) ②文化の壁(日本の同質的な学校文化)、③差別・偏見の壁(名前、肌の色、文化の違いによるいじめなど)]、不就学問題、地域による教育格差などの課題に触れ、学校、行政、外部機関が連携した多文化共生教育の重要性について講演いただいた。



佐賀県退職者連合「第32回定期総会」開催



佐賀退職者連合(略称:佐賀退連)は、11月28日(火)10時より自治労会館にて、第32回定期総会を開催した。

今総会では、2025年度の活動として一般経過報告、会計報告、会計監査報告が承認された。また、議案では、2026年度活動方針(社会保障制度改革に向けた取り組み、組織拡大・強化など)ならびに会計予算が付議され、両議案承認された。

最後に「憲法が保障する平和的生存権を不斷の努力で未来につなぎ、誰もが人生の目標を自由に追求できるジェンダー平等社会の実現をめざしていく。」との総会宣言を採択し、武重会長の「団結ガンバロー」で閉会した。



全国一斉集中労働相談ホットライン

～STOP！長時間労働～あなたの働き方は大丈夫？～

例年12月に開催している「全国一斉集中労働相談ホットライン」について、12月9日(火)と10日(水)に開催しました。

【テーマ】「STOP！長時間労働 あなたの働き方は大丈夫？」

【周知方法】報道各社へプレスリリース・TV報道 等

【実績】9日・・・1件、10日・・・5件 計6件

第66回(臨時)地方委員会の開催について <公示>

連合佐賀規約第24条に基づき「第66回(臨時)地方委員会」を下記の通り開催いたします。

記

1. 開催日時 2025年2月7日(土)10時00分～11時30分(9時30分受付開始)
2. 開催場所 自治労会館 大会議室
3. 議 案 第1号議案 連合佐賀2026春季生活闘争方針に関する件
第2号議案 表彰に関する件
※開催当日までに追加議案が発生する場合があります。

佐賀県の地域別最低賃金額が改定されました

部 門		時間額	効力発生日
地域別最低賃金	佐賀県最低賃金	1,030円	令和7年11月21日

なお、最低賃金には、次の賃金は含まれません。

- ①賞与などの臨時の賃金
- ②時間外・休日・深夜などの割増賃金
- ③通勤手当、家族手当、精皆勤手当

問合せ先：佐賀労働局労働基準部賃金室
☎0952-32-7179

**連合佐賀地域協議会事務所名称
＜ユニオンプラザさが＞に決定!**

各地協連絡先と地図は以下のとおりです。

南部地域協議会 TEL (0952) 20-2338







愛のカンパ金 募集

「連合・愛のカンパ」は、人道主義の立場から「自由、平等、公正で平和な世界の実現」に向け、社会貢献活動として取り組むものであり、NGO・NPO等の事業・プログラムへの支援を行っています。皆さまのご協力をお願い致します。

第一次集約 2026年1月30日(金)

最終集約 2026年6月30日(火)

振込先 [金融機関] 中央労働金庫 本店営業部
 [口座番号] (普通) 8924434
シブサビ
 [口座名義] 連合愛のカンパ

助成支援団体募集

中央助成

海外や国内で救援・支援活動に取り組んでいるNGO・NPO等の事業・プログラムが対象で、連合に加盟する産業別組織（構成組織）から推薦された団体。

地域助成



連合組合員およびその家族、あるいは連合組合員OB・OGが、運営に参加している、または地方連合会（連合の地方組織）が日常的な活動で連携しているNGO・NPO等の事業・プログラムが対象で、地方連合会から推薦された団体。

◎活動内容

1. 大規模災害などの救援・支援活動
2. 戦争や紛争による難民救済などの活動
3. 人権救済活動
4. 地球環境保全活動

5. 障がいのある人たちの活動
6. 教育・文化などの子どもの健全育成活動
7. 医療や福祉などの活動
8. 地域コミュニティ活動（レクリエーション活動を除く）
9. 生活困窮者自立支援活動

応募期間：2026年1月5日(月)～3月31日(火)

応募方法：2026年度の申請書にご記入の上、必要書類を添えてご提出ください。中央助成は構成組織の推薦を確認の上、連合本部へ。地域助成は所在地の地方連合会「連合・愛のカンパ係」へ。詳細は連合ホームページの応募要領をご確認下さい。（2026年度申請書については2025年12月掲載予定）

編集後記

明けましておめでとうございます。2026年は丙午（ひのえうま）の年です。丙午は60年に一度の特別な干支で、火の力が重なる強烈な年と言われます。「この勢いをどう活かすか！」物価高と人手不足の中で、私たちの生活改善をかけた春闘が始まろうとしています。地域の働く仲間にとっても、この春闘は“暮らしを守る挑戦”です。昨年の歩みを礎に、仲間とともに築いた力を土台として、2026春闘、ともに頑張りましょう！（M・H）